

(別記)

## 峰延地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は米の作付面積が水田本地面積の約5割を占める水田地帯であり、転作の主品目としては小麦を作付していますが、近年収量が伸び悩む傾向にあるため、大豆やそば、なたねを輪作体系に取り入れ、収量の向上を図ります。特に小麦、大豆、なたねに関しては収量向上が実現できれば所得向上に繋がる作物でありますので産地としても積極的に導入して参ります。また、野菜、花卉、果樹等については高収益作物として地産地消も含めた中で販売し、所得向上に努めます。なお、連合会長会議等で制度周知・ビジョンの検討を進めます。

### 2 作物ごとの取組方針

#### (1) 主食用米

実需者ニーズに即した「安全・安心」の提供を図るため高品質米の生産向上とYES!cleanの取り組み面積の拡大や環境保全型農業の推進を強化し、産地の確立を図ることと共に、需要に応じた安定供給を図るため、主食用米の面積確保に努めます。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

品種特性（多収性品種）を活かした収量の向上と直播栽培等による省力化や低コスト化により所得の向上を目指します。

##### イ WCS用稲

直播栽培等を行い、省力化や低コスト化に努め、面積維持を図ります。

##### ウ 加工用米

加工用米を中心に非主食用米の取り組みによる水張面積の確保を図り将来的な主食用米生産拡大を目指します。

#### (3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、透排水性の改善を図り、適期播種、適量施肥、防除等を継続的に実施し、品質及び収量向上に努めます。大豆については、面積を拡大し、輪作体系の確立を図ります。また、適期播種、適量施肥、防除等を継続的に実施し、品質及び収量向上により所得の向上に努めます。飼料作物については、適期播種を継続して行い、畜産農家への安定供給を図ります。

#### (4) そば、なたね

そばについては、適期播種、防除の情報提供を行い、単収の向上・安定化を図ります。なたねについては、防除の回数や肥料の量が少ないため、低コストにより所得向上が実現できる作物として、面積拡大を図ります。

- (5) 野菜  
地元スーパーと連携し、地産地消を推進し、需要にあった作付を図ります。(品目は別紙)
- (6) 不作付地の解消  
不作付地があった場合、翌年以降作付けできるように市と協議し、農地の有効利用に取り組みます。
- (7) 耕畜連携  
水田で生産されたわら専用稲(飼料用米)の稲わらを収集し、家畜に給与することで、水田における飼料生産の拡大を推進し、水田の有効活用と飼料自給率の向上を図ります。
- (8) 二毛作  
農地の有効活用と所得向上を図るため、二毛作を推進します。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	2,022.85	2,015.42	2,054
飼料用米	166.65	161.50	162
米粉用米			
WCS 用稲	19.01	20.11	21
加工用米	44.60	30.93	38
備蓄米	0	0	0
麦	1,128.50	1,128.74	1,150
大豆	242.55	305.55	380
飼料作物	7.69	6.07	8
そば	12.15	12.79	16
なたね	3.28	5.55	6
小豆	1.06	0.71	1
その他地域振興作物	67.76	70.42	71
野菜	62.10	65.32	66
花卉	3.93	3.50	4
果樹	1.73	1.60	2

## 4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

### ① 産地戦略枠と従来枠について

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)
1	小麦	担い手による作付 拡大	イ	実績面積	1128.50	1128.74
2	大豆	担い手による作付 拡大	イ	実績面積	242.45	305.55
3	緑肥作物	担い手による作付 拡大	イ	実績面積	116.31	117.00
4	そば	担い手による作付 拡大	イ	実績面積	4.45	7.21
5	野菜	担い手による作付 拡大	イ	実績面積	56.40	62.68
6	花卉	担い手による作付 拡大	イ	実績面積	3.45	3.50
7	果樹	担い手による作付 拡大	イ	実績面積	1.53	1.60
8	なたね	担い手による作付 拡大	イ	実績面積	3.28	5.55
9	小豆	担い手による作付 拡大	イ	実績面積	0.11	0.33
10	緑肥(後作)	小麦病害対策	ア	実績面積	0	148.75
11	野菜 (二毛作)	高収益作物の作付 拡大	ア	実績面積	0	2.68
12	飼料用米 (耕畜連携)	水田における飼料 生産の拡大	ア	実績面積	63.74	87.30
13	そば (二毛作)	二毛作作付の拡大	ア	実績面積	18.20	20.72

※「分類」欄については、実施要綱別紙 15 の 2 (6) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度(目標値)」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、( )内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

② 技術導入促進交付金について

別紙のとおり

**5 産地交付金の活用方法の明細**

別紙のとおり

## 4② 技術導入促進交付金

### (1) 技術導入促進交付金によって技術導入面積を拡大する革新技術

番号	革新技術名	期待される効果
1	大豆間作栽培技術	作業工程を省略することで労働時間を約3割削減
2	初冬播き栽培技術	作業工程を省略することで労働時間を約4割削減
3	狭畦栽培技術	作業工程を省略することで労働時間を約7割削減
4	水稲乾田直播	育苗工程等を省略することで労働時間を約4割削減

### (2) 技術・作物ごとの29年度の技術導入面積及び30年度の技術導入目標面積別表のとおり

### (3) 30年度に技術導入面積を拡大するための推進戦略

#### ① 地区別の30年度技術導入目標面積

(単位:ha)

番号	協議会区域一円			計
1	55			55
2	35			35
3	228			228
4	276			276

#### ② 技術指導体制

番号	革新技術名	技術指導体制
1	大豆間作栽培技術	空知農業改良普及センター、JAみねのぶ
2	初冬播き栽培技術	空知農業改良普及センター、JAみねのぶ
3	狭畦栽培技術	空知農業改良普及センター、JAみねのぶ
4	水稲乾田直播	空知農業改良普及センター、JAみねのぶ

#### ③ 普及方策

番号1 (革新技術名)大豆間作栽培
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会、研修会を開催し、大豆間作における小麦の増収効果・省力化・低コスト化を情報提供する。</li> <li>・JAみねのぶに相談窓口を設置し、技術導入や生育期間中のサポート行う。</li> </ul>

番号2 (革新技術名)初冬播栽培
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会、研修会を開催し、初冬播きにおける小麦の増収効果・省力化・低コスト化を情報提供する。</li> <li>・JAみねのぶに相談窓口を設置し、技術導入や生育期間中のサポート行う。</li> </ul>

番号3 (革新技術名)狭畦栽培
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会、研修会を開催し、狭畦栽培における大豆の省力化・低コスト化を情報提供する。</li> <li>・JAみねのぶに相談窓口を設置し、技術導入や生育期間中のサポート行う。</li> </ul>

番号4 (革新技術名)水田乾田直播
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会、研修会を開催し、直播栽培の省力化・低コスト化を情報提供する。</li> <li>・JAみねのぶに相談窓口を設置し、技術導入や生育期間中のサポート行う。</li> </ul>

